

【図の見方】

縦軸：

- ①右上がりの曲線は、「思想」（＝理念）曲線を表し、よい「思想」ほど「支持者」が多くなるという、常識的な主張を表している。
- ②右下がりの曲線は、「技術」（＝手段）曲線を表し、よい「思想」ほど、身につける（＝できる人は少ない）のは難しい！というこれも常識的な主張を表している。
- ③たいていの市民は、思想曲線に沿って発想し、立論する。それでリデュース>リユース>リサイクル>使い捨て（焼却）という順に大切なものを順位つけて、行政や企業行動を評価する。
- ④一方、この要望に応えることを課題にする企業や行政は、思想曲線に沿って発想するだけでは、仕事が前に進まないから、必ず技術曲線（若しくは手段曲線）に沿って発想し、現在の状況の中で「何ができるか？」を考え、実行に移していく。
- ⑤すると、「リデュース」に応えうる具体策は何か？を考えると、市民には消費量を減らして貰う必要があり、企業には生産量を減らして貰う必要があることわかるから、何かあるか？を考える・・・。容易に見つからない・・・！。だけど、最も大切であるから、やってくれる少数の人を探し、その人に続けて貰う施策は必要。
- ⑥リユースは？→びんをお店に返しに行っている人は何人いる？
デポジットをかけてもびんを持参する人は半分以上！で新びん絶えず補給しなくてはならなくなり、かえってエネルギーもモノも増える・・・。だけど、これも大切だから、やってくれる少数の人を支える施策は必要。生駒市ではワンディシュ活動を支援。
- ⑦リサイクルは、最善でも次善でもなく三善でしかないが、多くの人には他の2つに比べやすいから、どの行政も企業もこれからスタートする。
- ⑧リサイクル活動にもピンからキリまであり、上勝町、水俣市、姫路市等々はピンの方であるが、大都市化するほどキリが増え、衛星都市はその中間になる。
- ⑨最も言うは易く実行が難しいのは、国政>府県政>市政の順に市民の関心度が下がり、投票率が低くなることである。
- ⑩ごみ行政は、その矛盾が最もよく現れる施策で、住民の参加率を高めないと、巧く機能しないのに、この参加率を高め得る有効な策が何か？を学者に尋ねても、回答が還ってこない！
- ⑪それで生駒市では、若手の浅利さんと三木さんに白羽の矢を当て、賛成者を予め選ぶのではなく、積極的反対論を主張する方も参加する当委員会を立ち上げ、予めいわゆる落としどころを学識経験者と相談してこの場に臨むというスタイルを止め、有料化の是非から議論をスタートさせ、有料化がごみを10年間で半減するに適した手法の一つになるか否かを徹底的に議論して貰う方針を採用した。